

科目	週時数
現代文B	3 時間

<b>目標</b>	近代以降のさまざまな文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。	
<b>育てたい力</b>	<b>知識技能</b>	語句の意味、用法を的確に表現し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。
	<b>思考判断表現</b>	構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価するとともに、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうことができる。また、目的や課題に応じて収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することができる。
	<b>主体性協働性多様性</b>	さまざまな文章に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	教科書所収文章の読解  ・評論4 ・小説3 ・評論4 ・適宜、問題演習をおこなう。	・評論を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解する。 ・長編小説に描かれた場面、作中人物の心理などを的確に読み取る。 ・問題演習をとおして、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学期	教科書所収内容のまとめ  ・評論読解へのアプローチ①表現編 ・評論読解へのアプローチ②テーマ編 ・評論読解へのアプローチ③用語編 ・読書案内 ・適宜、問題演習をおこなう。	・評論を読んで、論じられた問題への関心を持ち、文化や社会について理解を深める。 ・小説における作中人物の性格や心理を読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。 ・問題演習をとおして、実践的な読解スキルの向上をはかる。

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習
<b>教科書</b>	『精選現代文B』(東京書籍)
<b>副教材</b>	改訂版 流れと演習 新日本文学史(京都書房) 新訂国語便覧 第六版(京都書房) 生きる現代文読解語(駿台文庫) 応用現代文(尚文出版) 現代文マーク完答24(尚文出版)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	語句テキストの内容を確認する小テストを毎授業で実施

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解ことができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
古典B	4 時間

<b>目 標</b>	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。	
<b>育 っ た い 力</b>	<b>知識 技能</b>	古典に用いられている語句の意味・用法及び文の構造・文章の構成に即して内容を的確に捉え、「読む」能力の一層の充実を目指す。
	<b>思考 判断 表現</b>	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	人間の生き方・考え方などについて話し合ったりまとめたりすることで、古典に親しみ、言語文化に対する関心を深め、豊かな自己形成を図る。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	教科書所収文章の読解  (古文編) ・日記2 ・評論1 ・物語4  (漢文編) ・史記2 ・小説2 ・文2	(古文) ・登場人物の心情を的確に読み取る。 ・テキストをしるした作者のものの感じ方、考え方を捉える。 (漢文) ・語句や句法の意味、用法に注意し、内容を正しく理解する。 ・登場人物と場面の展開を整理し、話の流れを正確に読み取る。
2 学 期	教科書所収内容のまとめ  ・「和歌というメディア」 ・「紛らわしい語の識別」 ・「漢文句法・重要語のまとめ」 ・適宜、問題演習をおこなう。	(古文) ・作品の背景を理解し、資料を適切に利用して内容を理解する。 (漢文) ・語句や句法に注意しながら文法内容を理解し、他者に説明できるようにする。

<b>授業の形態</b>	一斉授業・グループ学習
<b>教科書</b>	『精選古典B 古文編』(東京書籍) 『精選古典B 漢文編』(東京書籍)
<b>副教材</b>	改訂版 流れと演習 新日本文学史(京都書房) 新訂国語便覧 第六版(京都書房) これからの古典文法(尚文出版) 漢文学習必携 二訂版(京都書房) 理解を深める 核心古文単語351(尚文出版) 応用古典(尚文出版) 解けるセンター古典(浜島書店)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	文語文法・漢文句法の小テストを毎授業で実施

<b>到達 目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
世界史B	4 時間

<b>目 標</b>	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	
<b>育 っ た い 力</b>	知識技能	世界史の諸事象についての基本的知識を理解する。またそれぞれの事象を関連付けて考察する技能を身に付ける。
	思考判断表現	世界史の諸事象から課題を見出し、それを多角的に考察する。
	主体性協働性多様性	世界史を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	第2部2章大規模分業体制の成立 第3章 西ヨーロッパ覇権争い 第4章 工業文明と国民国家の誕生 第6章 世界の一体化とアジアの変貌 3部1章 一体化の完成と影響 2章 世界大戦の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主権国家の成立過程を把握し、現代世界の原型が誕生したことを理解する。</li> <li>・旧体制の矛盾と、近代市民社会が形成され、国民国家の原則が形成され、ドイツ・イタリアなどで国民国家形成が促されたことを理解する。</li> <li>・アジアの植民地化と、列強諸国の世界分割がどのように行われたかを理解する。</li> <li>・第一次世界大戦と社会主義国家の誕生により、それまでの国際秩序が大きく変動したことを理解する。</li> </ul>
2 学 期	第3章 東西冷戦から多極国際社会へ 第4章 相互依存を深める世界 演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの世界大戦の総力戦としての様相、社会主義・全体主義の台頭に着目し、大衆社会の出現について理解する。</li> <li>・米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国の台頭により自由主義圏、社会主義圏、第三勢力の各陣営の結束強化と相互の対立を軸に、冷戦期の世界の動向を理解する。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
教科書	『詳説世界史B』(山川出版社)
副教材	授業用詳説世界史整理ノート(山川出版社), アカデミア世界史(浜島書店)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	教科書の歴史的事象を関連付けて理解し、説明出来る
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解出来る

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
日本史B	4 時間

<b>目 標</b>	我が国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	
	<b>知識技能</b>	我が国の歴史の展開についての基本的な事項を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解する。
	<b>思考判断表現</b>	我が国の歴史の展開から課題を見つけ、多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
	<b>主体性協働性多様性</b>	我が国の歴史の展開に対する関心を高め、主体的に追究することを通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	8章 幕藩体制の動揺 9章 近代国家の成立 10章 二つの世界大戦とアジア 11章 占領下の日本 12章 高度成長の時代 13章 激動する世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸幕府の滅亡にいたるまでの流れを考察すると同時に、民衆の動きにも着目する。</li> <li>・維新期の近代化について、諸改革の内容を理解するとともに、立憲体制の確立に努めた国内外の情勢にも着目する。</li> <li>・二度の世界大戦へと進む状況を理解する。</li> <li>・戦後占領期の民主化政策と独立回復の動きを考える。</li> <li>・独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の復興を世界的な視野から理解する。</li> <li>・経済大国として成長する日本の様子と、冷戦終結以降の新しい情勢のもとで流動する現代の情勢を分析する。</li> </ul>
2 学期	履修範囲の復習と演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して履修範囲の理解を深める。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習 ペア学習
<b>教科書</b>	『詳説日本史B』(山川出版社)
<b>副教材</b>	新詳日本史(浜島書店)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	時期の特色、教科書の語句、事項の因果関係、史資料の完全理解
	60%	時期の特色、教科書の語句、事項の因果関係、史資料の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
地理B	4 時間

<b>目 標</b>	現代世界の環境問題や地域開発, 人種・民族及びそれに付随する諸問題などに関する地理的事象やその要因などについて体系的に考察するとともに, それらの学習で習得した知識, 概念や地理的技能を活用して, 世界諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し, 地理的な見方や考え方を培う。	
	<b>知識 技能</b>	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し, その知識を身につける。また, 諸資料を通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身につける。
	<b>思考 判断 表現</b>	現代世界の地理的事象から課題を見だし, それを系統地理的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究するとともに, 国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
<b>1 学 期</b>	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 3節 日本の自然の特徴と人々の生活～ 4節 環境問題 2章 資源と産業 6節 第3次産業～8節 現代世界の貿易と経済圏 4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住～4節 民族・領土問題	・環境問題とエネルギー問題の間には関連の深い問題も多く, 地域ごとに複雑な状況であることを認識し, 解決には国際協力が必要で緊急性もあることを理解する。 ・世界的視野・地域的視野から種々の民族・領土問題があることを学び, 背景・現状の共通性と相違性について理解する。
<b>2 学 期</b>	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 1節 地域の考察方法～11節 オセアニア 3章 現代世界と日本 1節 日本が抱える地理的な諸課題～ 2節 日本の抱える課題の追求	・東アジアを, 位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び, 日本との密接な関係をもとに世界とのつながりを考察する。 ・ヨーロッパを位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び, EUの拡大・発展が周辺地域に与える影響を考察する。 ・北アメリカを, 位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び, 世界に大きな影響を与える農牧業・工業の分布や成立背景について学び, 多角的に考察する。

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習
<b>教科書</b>	『新詳地理B』(帝国書院) 『地歴高等地図』(帝国書院)
<b>副教材</b>	最新地理図表 GEO(第一学習社) 新 地理要点ノート(啓隆社)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	調べ学習を取り入れる

<b>到達 目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	『新 地理要点ノート』の完全理解と大学入試レベルの記述問題を解くことができる
	60%	『新 地理要点ノート』における重要語句の完全理解と付随する図表問題を理解

※80%＝80点を取るための目安。

科目	週時数
政治・経済	3 時間

目標	社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。	
	知識技能	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめられる。
	思考判断表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう。
	主体性協働性多様性	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、わが国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たすことができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第2章 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立や協調などに着目して、現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を通して、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。</li> <li>・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について多面的・多角的に考察し、表現できる。</li> <li>・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土等に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、わが国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。</li> </ul>
2 学期	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第2章 国民経済と国際経済 第3編 現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きとしくみ及び租税などの意義、金融の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通して理解を深める。</li> <li>・経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現できる。</li> <li>・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象をとおして理解を深める。</li> <li>・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組などについて、多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述できる。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『政治・経済』(数研出版)
副教材	政治・経済(数研出版)、政治・経済資料集(清水書院)、倫理(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	『サポートノート政治・経済』 演習問題・発展問題の完全理解
	60%	『サポートノート政治・経済』 確認問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学探究①(設定)	5 時間

目 標	既習事項について、数学における概念や原理・法則について掘り下げ、理解を深める。また、諸事象について多面的に捉え論理的に思考する力を育てる。さらに、数学的活動を通して創造性を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。	
	知識 技能	高校数学の総復習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考 判断 表現	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、事象を数学的・図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
育 て た い 力	主体性 協働性 多様性	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを発展的な事象の考察に活用しようとするができる。自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数と式</li> <li>○関数と方程式・不等式</li> <li>○式と証明</li> <li>○整数の性質</li> <li>○場合の数・確率</li> <li>○図形の性質</li> <li>○図形と式</li> <li>○三角比・三角関数</li> <li>○指数関数・対数関数</li> <li>○微分法</li> <li>○積分法</li> <li>○ベクトル</li> <li>○数列</li> <li>○データの分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校数学の履修内容の習熟。</li> <li>○定理・公式の本質的理解。</li> <li>○諸事象の体系的な理解。</li> <li>○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。</li> <li>○問題解決能力の育成。</li> </ul>
2 学 期	○問題演習	○高校数学の総仕上げ。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
主たる教材	「三訂版 クリアー数学演習 I・II・A・B 受験編」(数研), 独自教材(プリント)
副教材	センター攻略Pick Up 120 数学 I A II B(東書), センター数学実践問題 パック30 数学 I A(駿台), センター数学実践問題 パック30 数学 II B(駿台)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「クリアー」のStepUpの完全理解
	60%	「クリアー」のExample・Practice・WarmUpの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
化学基礎探究(設定)	2 時間

目 標	「化学基礎」で学習した酸・塩基分野と酸化還元分野について、関連する実験や探究活動、問題演習を通じて学習内容の理解を深める。さらに、習得した化学の基本概念をもとに自然の理解を深め、科学的な思考力・判断力を育成する。	
	知識 技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。 化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考 判断 表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。 化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性 協働性 多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探求する能力と伝える能力を身につけることができる。 主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の構成</li> <li>・物質の構成粒子</li> <li>・粒子の結合</li> <li>・物質と化学反応式</li> <li>・酸と塩基</li> <li>・中和反応</li> <li>・酸化還元反応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学結合のしくみと性質について原子モデルをイメージしながら深く学び、物質の成り立ちを理解する。</li> <li>・固体・液体・気体の状態変化を原子や分子の動きをイメージしながら理解し、沸点・融点などの温度変化と結びつけ理解する。</li> <li>・代表的な酸・塩基が答えられ、強弱の意味を理解し、水溶液中での分子やイオンの状態がイメージできるようにする。</li> <li>・中和滴定において、蒸留水による洗浄や共洗いについて理論的に理解できるようにする。</li> <li>・電子の移動が酸化還元反応の基本であり、身近な現象で酸化還元反応の例を説明できるようにする。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に関連した化学</li> <li>・化学実験の基礎</li> <li>・グラフを用いた思考型問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学と人間生活について、化学の成果、環境問題について深く考えることができる。</li> <li>・実験器具について操作手順を理解し正しく使用できる。</li> <li>・グラフを分析し、与えられた課題に対して的確に答えられるようにする。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
主たる教材	「チェック&演習化学基礎」(数研出版)
副教材	セミナー化学基礎(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「ニューグローバル化学基礎」の応用問題の完全理解
	60%	「ニューグローバル化学基礎」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。



科 目	週 時 数
生物基礎探究(設定)	2 時間

<b>目 標</b>	生物や生物現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な自然観を育成する。	
<b>育 っ た い 力</b>	知識技能	生物や生物現象について, 基本的な概念や原理・法則を理解する。
	思考判断表現	多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い, それらの探究活動を通して, 生物や生物現象に関する体系的な知識を得たり, 生物学的に探究する能力や態度・方法を身につける。
	主体性協働性多様性	自然現象に対して興味・関心を高め, 疑問点を主体的に見出そうとする意欲をもたせる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き 第3章 生物の体内環境 第4章 バイオームの多様性と分布 第5章 生態系とその保全 予想模擬テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物基礎全般にわたり, 基本事項チェック・基本問題・標準問題の演習をすすめる。</li> <li>・実験について触れ, 具体的な操作やその意義, 仮説とその検証について考える。</li> </ul>
2 学期	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題集の実践問題を中心に演習をすすめる。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習
主たる教材	「ビーライン生物基礎」(第一学習社)
副教材	セミナー生物基礎(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる 実験や観察を取り入れる

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「ビーライン生物基礎」の発展問題の完全理解
	60%	「ビーライン生物基礎」の基本問題の完全理解

※80%＝80点を取るための目安。

科目	週時数
地学基礎探究(設定)	2 時間

育 て たい 力	知識技能	火山や地震, 気象などの自然現象を正確に理解するとともに, 防災への知識など, 自然を守り, 共存していくための基礎を学ぶ。
	思考判断表現	実験や探究活動を通じ, 物事を考察していく上で必要な手順や方法を学び, 適切に表現できる能力を養う。
	主体性協働性多様性	グループ学習などを通じて, 主体的に学ぶ姿勢を養い, 協働作業の重要性について理解する。
目 標	地学的な事物・現象についての観察, 実験等を行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し, 科学的な自然観を養う。	

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	1. 固体地球とその変動 2. 移り変わる地球 3. 大気と海洋	1. 地学基礎で学習した活動する地球に関する内容を基本に, プレート運動や火山活動, 地震活動についての理解と探究心を更に深める。 2. 地学基礎で学習した内容を基本に, 地球の歴史の探求の仕方と地球誕生から現在に至る地質時代の出来事 の理解を深め, 探求する。 3. 地学基礎で学習した内容を基本に, 大気中で起こる様々な現象, 海洋との相互作用と地球環 境についての理解を深める。
2 学 期	4. 宇宙の構成 5. 自然との共生	4. 地学基礎で学習した内容を基本に, 宇宙の誕生と地 球の形成, 惑星としての地球の特徴の理解を深める。 5. 地学基礎で学習した内容を基本に, 地球 環境の変化と日本の自然環境について理解を更に深め, 自然環境と人間生活とのかかわりについて深く探求する。

授業の形態	一斉授業, 実験, 観察, グループ学習
主たる教材	「地学基礎問題集」(啓林館)
副教材	セミナー地学基礎(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到 達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	問題集(セミナー地学基礎)の基本問題と発展問題の理解, 発展課題内容の理解
	60%	問題集(セミナー地学基礎)の基本問題の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

<b>目 標</b>	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
<b>育 っ て たい 力</b>	<b>知識技能</b>	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	<b>思考判断表現</b>	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	<b>主体性協働性多様性</b>	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 テニス バレーボール  ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。</li> <li>・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。</li> <li>・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。</li> <li>・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。</li> <li>・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。</li> </ul>
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。</li> <li>・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。</li> <li>・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。</li> <li>・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習
<b>教科書</b>	『高等学校保健体育』(第一学習社)
<b>副教材</b>	ステップアップ高校スポーツ2017(大修館)
<b>評価の方法</b>	実技試験と定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
コミュニケーション英語Ⅲ	5 時間

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を実際の場面で運用できるようにする。 全過程を通じて、大学が求める英語運用能力を伸ばす。	
	知識技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考判断表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
	主体性協働性多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Revised Landmark English Communication Ⅲ ・L8 Animal Math ・L9 The Story of My Life ・L10 Extinction of Languages ・L11 Learning a First Culture ・L12 Light Pollution	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈人生・生き方〉 〈歴史・芸術〉 〈言語〉 〈社会・文化〉 〈環境・科学〉
2 学期	Revised Landmark English Communication Ⅲ ・既習事項の確認と発展的演習	演習を通し、総合的な力を磨く。 ・求められている内容を表現することができるだけの語彙力を習得する。 ・求められている内容を正しく表現するための文法的知識を習得する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Revised Landmark English Communication Ⅲ』(啓林館)
副教材	Revised Landmark English Communication Ⅲ 予習ノート(啓林館) Vision Quest総合英語(啓林館) システム英単語(駿台文庫) 英語長文問題演習 合格のための極意12 完成編(桐原書店) 入試必携英作文 Write to the Point 三訂版(数研出版)
評価の方法	定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語表現Ⅱ	3 時間

<b>目 標</b>	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
<b>育 っ た い 力</b>	<b>知識 技能</b>	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 筆者の意図などを正確に理解して、文章を批判的に読むことができる。 日常生活についての情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別しながら理解できる。
	<b>思考 判断 表現</b>	日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	日常生活の出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 英語のネイティブスピーカーの先生と、本や映画など馴染みのある話題であれば、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	Part 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・L1伝統行事がいくつもあるのね。</li> <li>・L2職業体験はどうだった？</li> <li>・L3話したいことがあるんだ。</li> <li>・L4航空管制官として働きたいんだ。</li> <li>・L5そんな経験をもう一度したいわ。</li> <li>・L6これはカナダのバンクーバーで撮った写真なんだ。</li> <li>・L7携帯電話は私たちの生活になくてはならないもの？</li> <li>・L8犬と猫どっちが好き？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の確認と発展的演習を行う。</li> </ul>
2 学 期	Part 2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・L1ロボットの有用性</li> <li>・L2英語を学ぶ意義</li> <li>・L3都会と田舎</li> <li>・L4若者の本離れ</li> <li>・L5ベジタリアン</li> </ul> Part 3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・L1プレゼンテーション</li> <li>・L2ディスカッション</li> <li>・L3ディベート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なテーマについて、自身の考えをまとめたり、論理的に表現できるようになる。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習 ペア学習
<b>教科書</b>	『Vision Quest English Expression II』(啓林館)
<b>副教材</b>	Vision Quest English Expression II WORKBOOK(啓林館) Forest 7thEdition(桐原書店) NextStage 英文法・語法問題 4th Edition(桐原書店) OVERALL 英語総合問題集5(Z会) [2019 進研センター試験直前演習(筆記40)]40minutes × 14(ラーズ)
<b>評価の方法</b>	定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
英語探究①(設定)	2 時間

育 て たい 力	知識 技能	表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについての英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解することができる。また英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深め、自らの考えを発信することができる。
	思考 判断 表現	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして、適切に表現することができる。問いかけに対し即時応答することができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	[入試必携英作文 Write to the Point 三訂版] ・1主語の決定(1) ・2主語の決定(2) ・3目的の表現 ・4理由の表現 ・5時制(1) ・6時制(2) ・7動詞の語法 ・8関係詞 9時間の表現 ・10数字の表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。</li> <li>・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。</li> <li>・自分の考えを英語で論理的にまとめる。</li> <li>・相手の考えを理解し、同意、あるいは反論などの意見を、筋道を立てて話すことができるようにする。</li> </ul>
	[Listen Lesson センター試験編] ・1主語の決定(1) ・2主語の決定(2) ・3目的の表現 ・4理由の表現 ・5時制(1) ・6時制(2) ・7動詞の語法 ・8関係詞 9時間の表現 ・10数字の表現	
2 学 期	[入試必携英作文 Write to the Point 三訂版] ・11仮定・条件の基本 ・12仮定・条件の応用 ・13比較の基本 ・14比較の応用 ・15譲歩の表現 ・16重要表現(1) ・17重要表現(2) ・18Aは・・・だ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。</li> <li>・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。</li> <li>・グループディスカッションの中で自分の考えを他者に的確に伝えることができる。</li> </ul>
	[Listen Lesson センター試験編] ・11仮定・条件の基本 ・12仮定・条件の応用 ・13比較の基本 ・14比較の応用 ・15譲歩の表現 ・16重要表現(1) ・17重要表現(2) ・18Aは・・・だ	

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
主たる教材	「入試必携英作文」(数研出版), 「Listen Lesson」(駿台文庫)
副教材	Vision Quest総合英語(啓林館) NextStage 英文法・語法問題 4th Edition(桐原書店)
評価の方法	定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到 達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「入試必携英作文」中の英文を全て暗記している 「Listen Lesson」の英語音声に対し、すべての英文をディクテーションをすることができる
	60%	「入試必携英作文」中の英文を80%以上暗記している 「Listen Lesson」の英語音声に対し、80%以上の英文をディクテーションをすることができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

<b>目 標</b>	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
<b>育 っ て たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	歴史的, 社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	<b>思考 判断 表現</b>	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り, いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが, 同時に有意味である自己肯定感を促す。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	異なった考えを積極的に捉え, これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで, 全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリュニー修道院</li> <li>・スコラ学</li> <li>・マリア崇敬 各福音による発展</li> <li>・教皇のバビロン捕囚</li> <li>・ウイクリフとフス</li> <li>・東西教会の分裂</li> <li>・東方正教会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書を学ぶ, 必要性を知る。</li> <li>・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。</li> <li>・3校祖と3L精神を学び, 学院生としての自覚を促す。</li> <li>・教会の礼拝と, 学校の礼拝の違いを知る。</li> <li>・イエス・キリストの生涯と, 新約聖書の概観を知る。</li> <li>・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。</li> <li>・本来あるべき, 神との関係性について知る。</li> <li>・本来あるべき, 隣人との関係性について知る。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エラスムス</li> <li>・ルネサンスとその時代</li> <li>・エックハルトとフローテ</li> <li>・宗教改革 ルター</li> <li>・改革派の体系化 カルヴァンによる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新約聖書の翻訳と, 人文主義的立場を学ぶ。</li> <li>・神なき文化から魂の救いを考える。</li> <li>・ドイツとオランダの神秘主義思想を知る。</li> <li>・塔の体験, 95ヶ条の提題を学ぶ。</li> <li>・スイスの宗教改革の特質を学ぶ。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業
<b>主たる教材</b>	聖書
<b>副教材</b>	なし
<b>評価の方法</b>	定期試験, 提出物による総合評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学	1 時間

<b>目 標</b>	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
<b>育 っ たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	<b>思考 判断 表現</b>	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	「課題研究」「進路研究」	「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。  オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。
2 学期	「課題研究」「進路研究」	「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。  オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。

<b>授業の形態</b>	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
<b>教科書</b>	なし
<b>副教材</b>	なし
<b>評価の方法</b>	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする